

OPENING 3 DAYS



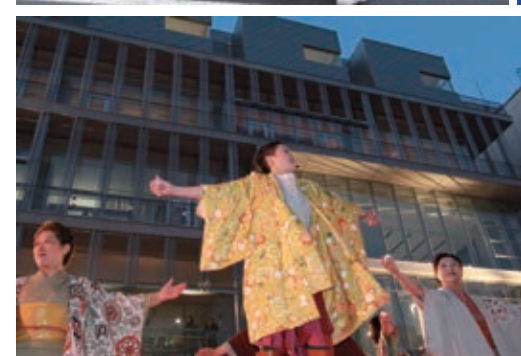
このまちがもっと、
このまちらしく輝くために。
はっち、2011年2月11日オープン。

2011
2.11

幕開けは
市民の手で



この日、8歳を迎えた子どもたち
に手を引かれ、小林市長らが
はっちの扉を開けた。
通りでは、高校生たちが灯した
無数のキャンドルの炎があたたか
く揺れていた。



真冬の中心街に立錐の余地なく市民が集まった。
暮れゆく中心街で、こどもえんぶりがにぎわいを創り出して行く。はっち前の屋外ステージでえんぶりが始まり、やがて、小学生から高校生までが作ってくれたキャンドルテールが通りに並べられていく。はっち前のビルにカウントダウンの映像が投影される中、子どもたちから70代までの市民がワークシヨップで創り上げてきたコミュニティ・ダンスがスタートした。
はっちは八戸の入口であるとともに、創造の卵がふ化する場所。ダンサーたちは観客に顔が描かれたゆで卵を配りながら、観客を巻き込んでいった。

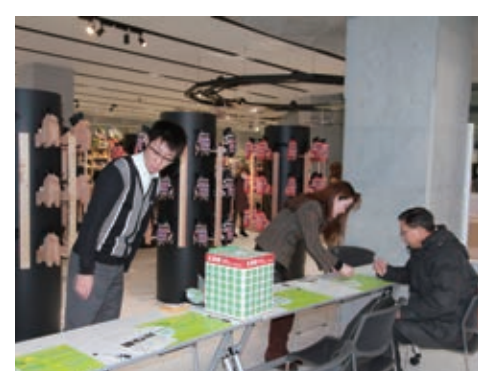
OPENING 3 DAYS



2011
2.12

未来をになう
子どもたちのために
こどもはっちオープン!

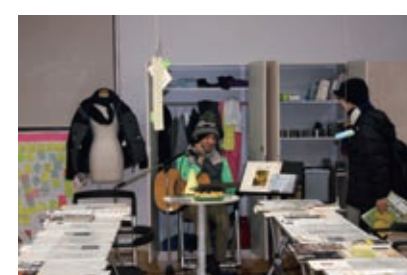
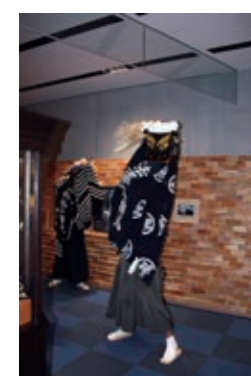
人々が出会い、ふれあい、創造する場
はっちのお披露目



オープン2日目は、子どもたちが主役。

4階にこどもはっちがオープンし、はっちひろばなどでは、子どもたちの歌、コーラス、ダンスなどが次々と披露された。

また、オープニング事業として中心街全体にフキダシのアートを展開しているアーティストの山本耕一郎さん、はっちのアドバイザーボードの委員長を務める加藤種男さんを迎えてのアーティストトークも行われた。フキダシという形で見える化されたお店や会社の中にいる人々の「うわさ」によって、まちがいきいきしてきた。「まちがアートに出会うとき」と題し、これまで市民があまり経験したことのない現代アートによってまちの活性化が実現していくという事例について話し合った。



はっち館内も、子どもたち、展示制作に関わった八戸の作家のみなさん、郷土芸能団体のみなさん、文化芸術を愛する市民のみなさん、アーティストたちが、趣向を凝らして来館者を迎えた。初めて見る観光展示の数々に、歓声上がる。また、館内のあちこちで人々が出会い交流した。



左下2枚：山田珠実さんと市民ダンサーたちのワークショップ
その他：ウミネコを彷彿とさせる市民のダンス。

コンテンツポラリー・ダンス
に市民が挑戦！

八戸を生きる人々が創り出す
コミュニティダンスに
「八戸」という世界が浮かび上がる。

JCDN ダンス作品クリエイション&
全国巡回プロジェクト

踊りに 行くぜ!!

セカンド
II

八戸公演

2011.2.19 sat - 20 sun

19日 | 開場: 18:30 開演: 19:00 | 20日 | 開場: 15:30 開演: 16:00



全国津々浦々でコンテンツポラリー・ダンスの公演を、開催地ならではの講演スタイルで運営する「踊りに行くぜ!!」は、はっちの開館に合わせて、八戸公演を行った。

全国公募から選出された2組のダンサーたちの新作が上演された。また、山田珠実さん、八戸出身の磯島未来さんのもと、市民ダンサーを公募し、「はっちコミュニティダンサーズ」を結成した。10、60代の市民たちが、ワークショップを重ねながら、ダンサーたちとともに作品を創り上げ、はっちのオープニングですばらしいダンスを披露したほか、「ウミネコ・ステーション」と題した新作を上演した。

全体企画・制作・主催：NPO法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)

八戸公演主催：「踊りに行くぜ!!」II 八戸公演実行委員会 八戸市 [八戸ポータルミュージアム はっち]

〈「踊りに行くぜ!!」II 八戸公演実行委員会〉

社団法人八戸観光コンベンション協会／株式会社BeFM／株式会社八戸テレビ放送／商店街振興組合三町三栄会／八戸商工会議所／株式会社まちづくり八戸
八戸市十三日町商店街振興組合／青森県立八戸高等学校／八戸警察署／八戸消防署／株式会社アイズ／有限会社サウンド・クリエイト／八戸市

OPENING 3 DAYS



現代アートは、人と人とを会わせ、人間関係を再構築し、新たな発見をさせる。その交点に新しい価値が生まれる。

はっちがこれから、まさに人々との出会いの場、再発見の場、新しい価値を産み出す場として、動き出すことを予感させるようなトークが展開された。

3日目は、地元出身で八戸特派大使でもある十日市秀悦さん、ゴスペラーズの北山陽一さん、小林市長らが、八戸の地域資源や未来への可能性について楽しく語り合った。

子どもたちが、北山さんと北山さん作曲の白山台中学校の校歌（混声6部合唱曲）と一緒に歌うひとときもあり、観客とともにふるさと八戸を再確認し合うひとときになった。

また、夏にアーティスト・イン・レジデンスで八戸に滞在したアーティストのアサダワタルさんが、そのときに関わった各界のみなさんと再会。改めて「八戸の棚」について振り返った。立場も職業も違う人々を出会わせ、結びつけたアサダ氏のプロジェクトのおもしろさが浮かび上がった。

はっちのオープンを若い力が支えてくれた。

通りに並べるキャンドル台製作、極寒の夜、そのキャンドル台を音楽にのせて美しく並べること、たくさんのキャンドルに短い時間で点火すること、その灯火をキープすること、人混みの中でそれを搬出し後始末すること、さらに、コミュニティ・ダンスを盛り上げること。

そのすべてを八戸東高校をはじめとする市内の高校生のみなさんが、情熱を持って遂行してくれた。特に寒風吹きすさぶ中、コミュニティ・ダンスを盛り上げるために新たな振付を覚えたり、優雅に卵を配ったりすることは楽なことではなかった。しかし、観客と演技の間で、状況判断しながら実にすばらしい動きを見せてくれた。

キャンドル台は、小学生も一緒に作ってくれた。

はっちのオープンに力を貸してくれたこの体験が、やがて大きなまちの力になると信じていたい。



2011
2.13

「ウミネコステーション」

構成・演出：山田 珠実 演出補佐：磯島 未来

出演：はっちコミュニティダンサーズ



山田 珠実
構成・演出

早稲田大学で心理学を学んだ後渡欧し、各地でダンサーとして研鑽を積む。帰国後は主に振付家として活動。長久手文化の家、鳥の劇場、明治安田生命エイブルアートオンステージ等の委託、助成により振付作品を発表するほか、小学校、高齢者施設等においてもワークショップを行う。ワークショップのシリーズにDance&People主催による「みる、きく、かかわる」等。



磯島 未来
演出補佐

八戸市鮫町出身。モダンダンスを中村美枝子に師事。上京を機に「黒沢美香&ダンサーズ」に参加。2004年ダンスユニット「ピンク」を結成、国内外11都市にて作品を発表。2006年日本女子体育大学卒業後にソロ活動を開始。2008年文化庁・新進芸術家海外留学制度の研修員としてドイツ・ベルリンに滞在。自身の作品を発表するほか、Sebastian Eilers, Jörg Brüttなどの作品に出演。2010年秋に帰国。



2月になるとやって来て産卵し8月に去っていくウミネコたち。彼らの旅の記憶に自らの人生を重ねる。淡々と海を行き来するその姿をモチーフに、10代から60代までの市民たちが、自分自身を雄弁にダンスで物語った。
「コミュニティダンスでなければ伝えられない、地域に根ざした人生たちのリアリティ」と生きていることの愛おしさ、観る者の胸に切々と迫って来た。高校生を中心にした若手のダンサーは美しい群舞で観客を圧倒した。

はっち全館に広がった ダンスの輪



やがてダンスははっち全館に広がった。はっち館内にいる人々を巻き込んでダンスの輪は広がる。身体を動かしていくうちに心は開かれ、言葉を交わさずにコミュニケーションが広がっていく。劇場だけがダンスのステージではない。街のあらゆる場所がステージになりうることを体感するひとときになった。



「カレイなる家族の食卓」

作・構成・演出：村山 華子

振付・出演：小笠原大輔、笠井晴子、中島晶子、村山華子
美術・映像・小道具・衣装デザイン：村山華子



村山 華子

作・構成・演出・振付・美術・映像・小道具・衣装デザイン・出演

東京芸術大学美術学部在学中より、美術作家として、展覧会出品、ワークショップを開催。05年コクヨ(株)より、自身の企画デザインのノート発売をきっかけに、プロダクトを中心としたアートディレクションの道に進むが体を壊し、治療、体力づくりの一環で始めたコンテンポラリーダンスを通じ、ダンサーと出会い、舞台の美術、映像等を担当するようになる。「日本昔ばなしのダンス」はなさかじいさん・かきのきじろべえ(近藤良平)等の作品に参加。築60年の日本家屋をアトリエにし、子どもの造形ワークショップも開催。



前納 依里子

作・演出・構成・振付・出演

83年生まれ。加賀谷香に師事し、ダンサーとして作品に出演する傍ら、08年より自身の活動を本格化。セッションハウス等で作品発表や即興パフォーマンスも精力的に行っている。作品では、人間の本质や社会構造などを主に扱う。08年秋田全国モダンダンスコンクールにて、あきたこまち賞受賞。

はっちコミュニティ・ダンサーズに参加した 山本トミさんに聞く

この歳で踊り？ 人生を楽しむ いい機会です。

はっちオープニングアートプロジェクトとして開催されるJCDNダンス作品クリエーション&全国巡回プロジェクト「踊りに行け!!」Ⅱ八戸公演。66歳で応募された山本トミさんは、踊りはおろか、得意なスポーツもない普通のおばあちゃん。一見、プロ志向のダンスか？とも思われがちな企画に応募したのは「私は約20年前に乳がんを患った。それまでの人生も苦難続きで、昼も夜も必死で働き、3人の息子の子育てを全うしようとする時のことでした。落胆の極みでしたが、長男が

私の看病のために仕事を辞め東京から帰省、次男も勤務先の外国から頻繁に帰ってきてくれて、おかげで完治しました。」『女は笑顔で暮らすもの』と教わり、どんな苦勞も耐えることだけで生きてきた山本さんだが、ここ数年は息子たちの幸福な結婚や自分自身が楽しむためのカルチャースクール等のおかげで、『人生これからだ!』という気持ちに切り替わってきたとのこと。そんな矢先に「ダンサー募集」のお誘い。実際にワークショップに参加してみると、一人ひとりに合わせた無理のない動きで、演出の山田さんも丁寧で、めきめきやる気が湧き上がり、「コミュニティダンス」の楽しさが分かってきたという。いつでも「今が人生の一番楽しい時」と素敵な笑顔で語る山本さん。2月11日のオープニングと19～20日には、人生を存分に楽しむ姿を見せてくれた。



※このページに掲載されているプロフィールはすべて 2011 年当時のものです。